

「月刊！スポ協ナビ」 4月24日（木）

～パラスポーツ『ボッチャ』ってどんなスポーツ？～

出演 エンジョイボッチャ 鈴木祥子

穂の国ジャッカルズ 伊藤優樹

豊橋市スポーツ協会 金田英樹

FM とよはし いいだまき



（いいだ）

はい始まりました。月刊！スポ協ナビ、毎月第4週目のこの時間にお届けしております。10月10日が体育の日だった時代を経て、毎月10月の第二月曜日に変わり、そして名前も体育の日からスポーツの日に。それに伴って2020年、豊橋市体育協会も豊橋市スポーツ協会となりました。今豊橋市でどんなスポーツの大会が開催

されているのか、どんなスポーツが熱いのか、そんな話題を通して、スポーツの魅力をお伝えしていくコーナーです。さあ、今日も豊橋市スポーツ協会から金田さんにお越しいただいております。よろしくお願いいたします。

（金田）

こんにちは。よろしくお願いいたします。

（いいだ）

だいぶ暑くなってきましたね。ゴールデンウィーク間近っていう事で。

（金田）

今日、岩田運動公園のサッカー場で保育園児達に来てもらって芝生の上で自由に遊んでくださいという事を今年から始めまして今日が初日でした。子どもたちが元気に芝生の上を走り回って元気ですね。私も走りたかったですが・・・。

（いいだ）

わあ、素敵、いいですね。

（金田）

こういう季節になってきたんで、絶対いけるなと思って、企画して、今年からやり始めています。天気もこんな感じで、本当にあったかくていいです。これ以上になると暑くなり過ぎちゃって、それも心配は心配なんですけど。熱中症が心配ではあるんですけども、この季節ならなんとか大丈夫ですね。こんなことも取り組んでいます。新年度

初めての放送ですので、また気持ちを新たにしてくださいね。取り組んでいきたいなと思います。

新年度から色々と新しい事業もやっていますが、今回パラスポーツについて、焦点を当てて取り組んでいる中で、新たにボッチャ教室を予定してます。そして今日ゲストとしてボッチャに取り組んでいるお二人に来ていただいていますので、いいださんの方からご紹介の方をお願いします。

（いいだ）

ボッチャに取り組んでいるお二人の方にお越しいただいていますが、まずはボッチャ教室で指導されているエンジョイボッチャの鈴木祥子先生です。こんにちは。よろしくお願いします。

（鈴木）

はい、よろしくお願いします。

（いいだ）

先生は豊橋特別支援学校の教員をされています。いろいろとお話を伺っていきます。そして、鈴木先生からボッチャの教えを受けて、現在は穂の国ジャッカルズというチームで活躍されています伊藤優樹さんです。よろしくお願いします。

（伊藤）

はい、よろしくお願いします。

（いいだ）

元気な声ありがとうございます。伊藤さんおいくつなんですか？

（伊藤）

二十歳です。

（いいだ）

そうなんだ。現役バリバリのボッチャの選手ですね。今日はボッチャの話を色々と聞けるのではないかと思います。そんなお二人にお聞きして行きたいんですけども、まずは、このボッチャという競技、もしかしたら馴染みがないという方もいらっしゃるかもしれないので、ざっとご紹介していただいてもよろしいですか。

（鈴木）

皆さん今思い出せば、東京オリンピックパラリンピックで日本の選手もかなり活躍されたと思うんですけども、ボッチャというのは、ヨーロッパ発祥の障害者のために考案されたスポーツです。先程お話ししたとおり、パラリンピックの正式種目にもなっています。日本でもとても有名な選手がたくさんおります。

（いいだ）

ありがとうございます。もともとはヨーロッパで重度脳性麻痺の方とか、同程度の四肢重度機能障害の方のために、考案されたスポーツなんですよ。

（鈴木）

もう少し詳しくいいますと、戦後に負傷した兵士たちが病院の中でベッドに横たわっている姿を見たドクターがこの人たちに元気を与えようと、車椅子に乗った方とか、ベッドサイドになってる方の為に

考えられたスポーツだと言われております。

（いいだ）

そうなんですね。戦後って聞くとかなりの歴史あるんですよね。

（鈴木）

それがイタリアで発祥したという事ですね。

（いいだ）

そこから知った皆さんがこう世界を広めていくということですね。

今は本当に世界に競技選手の皆さんがいる感じなんですよ。

（鈴木）

そう世界的にいいますと、限られているとは思いますが、ヨーロッパを中心に行われてます。

（いいだ）

競技の特徴はどういったものなんですか。

（鈴木）

パラリンピックの種目ですので、高度な技術や戦術が競われます。また一方では、皆さんが楽しめるように老若男女、障害のある無しに関係なく、お年寄りから幼児の方とか関係なく楽しめ、誰もが一緒に競い合えると、私はよく言うんですけども、同じ土俵で戦えるそんなスポーツだと思います。

（いいだ）

体の大きい小さいとか、年齢とかっていうのも関係なくってということですね。

（鈴木）

あとスポーツで一番言われます、体力とか持久力とか、運動神経とか、そういうのもあんまり関係がないかなと思います。世界的な選手は別としまして、普段普通に組み合うとすると、そんなに差の出ないスポーツだと思います。

（いいだ）

なるほど。じゃあ言ってみれば、本当にその家族の中でも、おじいちゃんからお孫さんまで一緒にできるスポーツなんですね。具体的にルールとか競技方法はどうなっているんですか？

（鈴木）

ジャックボールと呼ばれる今日ボール持ってきたんですけども、ちょっと見えないのが残念ですが、白いボールです。これを目標の玉にしまして、それに対して、赤チームの赤いボール、それから青チームの青いボールこの 2 つの色のボールが 6 個ずつです。これを投げ合って、目標球のジャックボールに近づけていって、最終的にどっちがたくさん近づいたかを競うゲームです。

（いいだ）

白と赤と青の三色のボールが存在していて、赤チームと青チームに分かれて競うっていうことですね。簡単に言うと、そんな感じの競技ということなんですけれども、鈴木先生は学校での指導のほか、ボッチャの活動として、どんな活動されていらっしゃるんですか？

（鈴木）

今から遡りますと 18 年ぐらい前なんですけども、東京に出張で、出かけてボッチャに出会ったわけなんですね。その時に肢体不自由の特別支援学校の研修会だったんですけれども、そこで肢体不自由のお子さんたちが楽しめる、体育の時間でできますよってという題材としてボッチャを教えていただきました。これならどんな子でも体育の授業に使えるなと思って学校に持ち帰りました。すぐにはボールが手に入らなかったんですけど、ちょっと安いボールを購入しまして、体育の授業にやり始めたのが最初です。それから保護者の方とうちの子たちにもこういうのができる場所が欲しいということで、学校の授業以外にってということで、ボッチャクラブというクラブを立ち上げました。それが今から 18 年ぐらい前です。そこからボールをちょっとずつちょっとずつ買って行って、高いもんですからはいとても大変なんですよ。私が最初買ったのはビニールだったんですけど、豪勢な物だったんですけど、これは本物の皮ですね。

（いいだ）

見るからにしっかりしていますね。

（鈴木）

この表面に縫い目がありますよね。この縫い目によって、ボールの軌道が変わる。床に対して面白い転がり方をします。

（いいだ）

すごくちっちゃいサッカーをボールみたいな感じにも見えるんですが、触って見ると分かるんですけど、パンパンのお手玉っていう感じ

ですね。

（鈴木）

重さもあります。これが 275 グラムからプラスマイナス 12 グラムまでの許容範囲でボールは所持できるんです。だから、選手の皆さんは大体マイボールですね。自分で作ることはないですかね。

（伊藤）

作ったことはないですね。なかなか難しいと思います。

（鈴木）

材料を調達するのは難しいですね。結構しますが一つ5千円するので、安くて。

（いいだ）

手作りなんですかね。中に入っているのは砂ですか？

（鈴木）

砂と言われていますけど、実際にはビーズですね。小さいビーズと言われています。話を前に進めますが、それから 18 年間ボッチャ教室を細々とやってたんですけども。

（いいだ）

その時には、エンジョイボッチャっていう名前の・・・。

（鈴木）

いや、それはまだなんです。順番があるんです。そこそこやっていたところで、豊橋南ライオンズさんのある方と知り合いまして、その方とお話をしているうちに、じゃあライオンズの方からボールを寄贈



しますというお話を頂きまして、この高額なボールを 6 ケースもいたいたんです。それで私も個人的に所有しちゃったもんですから、これは何かをしなくては、はい神のお告げですよ。それでうちの部屋に眠らせてくのはいけないと思って、ボッチャクラブだけでなく、今度は小学校中学校の子供達で、支援級に通ってる子や特別支援に通ってるお子さん達を集めてクラブを立ち上げようと、そこで SSC というクラブを立ち上げた。

（伊藤）

スペシャルスポーツクラブという名前。又の名を鈴木祥子クラブという名前を付けた。

（鈴木）

子どもたちが、鈴木祥子クラブと言ってたようですが、それを知らずに、スペシャルスポーツクラブでやってました。その時に知り合ったのが優樹くんですね。

（いいだ）

そうなんだ。伊藤君はどうしてボッチャをやろうと思ったんですか？

（伊藤）

はい、僕はですね、豊橋特別支援学校に見学に行って、翔子先生から手作りのボッチャボールをいただいたのがきっかけです。

（いいだ）

そうなんだ。じゃあこのボールもらって、そこから興味を持ち始めた

という感じだったんですか？

（鈴木）

そうなんです。それと同時に SSC を立ち上げて、その立ち上げ時のメンバーです。お母様に会長さんもやっていただいて。

（いいだ）

お母さんもされるんですか？

（伊藤）

いえ、サポートですね。

（いいだ）

ルールなんかは熟知されてるんでしょうね。スポーツの日の時のイベントでルールなんかも教えていただいたんですが、なかなか頭に入ってきてづらいとか難しくないですか？

（鈴木）

覚えてしまえば本当に簡単です。あの白いボールに、みんなお互いに投げあってだけですもんね。

（いいだ）

まあまあそうですね。点数とかってというのは、点数の付け方が、ちょっと良いですか？

（鈴木）

例えば、こうなった場合に、今、白いボールに近いのが青ボールなんですよね。だから、もうこの勝負は、青の勝ちなんですよ。この近いボールの赤の中に青がいくつ入っているかで点数が決まると。なの

で、赤はゼロ点。カいれてやるもんですから、もっとボールは色々と散乱しますけど。あの話をまた元に戻しますけれども、そのエンジョイボッチャというのは、ボッチャクラブと SSC のこの 2 つはあの障害を持った子供たちの為に作ったクラブです。今度はもうちょっと欲が出ちゃったんですね。もう一般の方にもぜひボッチャをやってもらいたい。

（いいだ）

でも、やっぱりそれはね、もうそこに行くのは、常というか必須というか。

（鈴木）

そうなっちゃったんですよ。そこでエンジョイボッチャという、出前講座でボッチャを教えに行きますよ。ボールを持ってそちらに伺いますよってということで始めました。

（いいだ）

やっぱりこうみんなで楽しむっていう中には、やっぱり、健常者も加わらないとってというのは絶対にあると思います。

（鈴木）

絶対に健常の方は、自分のほうが絶対上手いに決まってるって思ってくるじゃないですか。いや、全然。もう上手です。

（伊藤）

いや、そんなことはないんですけども。

（鈴木）

そうなんですよ。だから、例えばかけっこでは負けてしまうかもしれない、ボールを遠くに飛ばすのでは負けてしまうかもしれないけど、ボッチャならっていう、やっぱり障害を持った子たちが、そこで自分の得意なもののスポーツは何が好き、何が得意って言った時にボッチャできますって言えたらいいなっていうのが、本当に私の願いです。

（いいだ）

伊藤君はね、今日杖をついてこられましたけど、やっぱり車椅子の選手の方とか色々いらっしゃると思うんですよ。そういうのも、すべてカバーできるというか、いろいろなこう球を投げるにしても。

（鈴木）

手の使えない方でも、ランプという傾斜台があるんですけど、そういう道具を使いまして、ボールをスティックみたいなもので押してみ、ボールを転がす。そういう手法もあります。それがランクで分かれるんですよ。

（伊藤）

そうですね。その障害の度合によって、変わってくるので。自分で投げれる人たちもいれば、そのランプっていうボーリングで使うようなもので投げる子もいます。

（鈴木）

そういう子達が、みんな一緒に、競技に参加できるっていうのがね。そして、試合になりますと、それがランクに分かれるんですよね。なので、それもまた面白いですよ。同じグループの人たちと競えるって

いうのがあるので。

（いいだ）

そうか。伊藤君がそういう競技の場に行って、競い合うのは本当に同等レベルの障害を持った人たちが横に繋がる話も、話も余計に弾み  
そんな感じがすしますね。友達も増えました？

（伊藤）

そうですね。ボッチャで繋がった友達は結構いますし、今でも練習や大きな大会で知り合ったときは、声をかけ合って、みんなで頑張っていこうねっていう活力はお互いにもらったりします。

（いいだ）

そういう輪も広がって、豊橋ボッチャフェスティバルっていうのが、毎年行われていると聞きましたけれども

（鈴木）

先ほどもお話をしました。あのボールを寄贈してくださった豊橋南ライオンズクラブの方たちでは主催してくださってます。毎年 11 月に行われていまして、今年開催されれば 8 回目です。

（いいだ）

そうなんですね。10 周年間もなくってことですね。

（鈴木）

この間 10 周年お願いしますって頼んできました。

（いいだ）

何人ぐらいの方が参加して、何チームとか、すごいチーム数ですよ。

（鈴木）

結構たくさんです。延べで言いますと、午前と午後と両方出た方もいらっしゃるので、200名近くですね。そこには、あのボランティアで手伝ってくださる若い方がいっぱいいて、その方たちなしでは、その活動はできなかったなって思ってます。土日でも本当に皆さん来てくださって、子供たちの為にサポートしてくださったりとか、皆さん来てくださってます。

（いいだ）

そういう皆さんっていうのは、どういうきっかけで、ボッチャのボランティアとして来られてるんですか？

（鈴木）

いろんなところですね。中心は豊橋特別支援学校の私の同僚から始まったのと。あとは、私がママさんバレーをやってるのでその仲間とか、皆さんに助けていただいております。

（いいだ）

伊藤君が初めて翔子先生に会ったっていうのはいくつの時だったんですか。

（伊藤）

小学校3年生の時です。

（いいだ）

そこからずっとやってらっしゃると思うんだけど。

（伊藤）

そこから SSC というクラブに入部しました。今は愛知ボッチャ協会に入会して、入会しながら穂の国ジャッカルズっていうクラブで練習しています。

（いいだ）

活動としてはどこでやってるんですか？

（伊藤）

月 1 回さくらピアで活動してます。

（いいだ）

そうなんですね。もちろん大会も出たことあると思うんですけど、どんな感じなんですか？

（伊藤）

ボッチャ甲子園や日本ボッチャ選手権に出場しました。

（いいだ）

おー、成績っていうのは、どういう感じなんですか。

（伊藤）

やっぱり強い方がいっぱい見えるので、残念ながら、自分は予選敗退してしまっています。

（いいだ）

これからですね。

（伊藤）

これからなんですけど、毎年強い選手のプレーを勉強させてもらって、自分も強くなろうっていう気持ちを高めているところですね。

（いいだ）

はい、今後の目標はどうか？

（伊藤）

大きな大会で本戦に出場することです。

（いいだ）

改めてになりますけれども、ボッチャの魅力について、このラジオお聞きの皆さんにもお伝えいたしたいんですが。

（鈴木）

そうですね。私はやっぱり誰もが楽しめるスポーツというのをモットーにしていますので、それを皆さんにわかってもらいたいなということと、あとはなかなか思い通りにいかないんですね。簡単そうに見えて奥が深い。そこがはまるかと思います。

（いいだ）

私もそこは何となく感じております。伊藤君はどうか？

（伊藤）

はい、ボッチャは障害の度合によってクラス分けされているので、どんな障害を持っていたても、みんなが同じルールで楽しめるというところなんです。皆さんもぜひチャレンジしてもらえればというふうに思っております。

（いいだ）

はい、ありがとうございます。最後になりましたけれども、ボッチャをこれから始めてみたいなっていう方、いらっしゃると思うんです



けれども、どうすればいいですか？

（鈴木）

そうですね。ボッチャ教室ですが、実はスポーツ協会が主催しまして、今年度から開催します。では、金田さんの方から宣伝してください。

（金田）

今話がありましたように、今年度からスポーツ協会が主催しましてボッチャ教室を開催します。期間がすでに決まっています、5月17日土曜日から7月19日土曜日までの6日間で設定しております。時間の方なんですが、1時半から3時まで、定員は20名を想定し、対象者はどなたでもできるということで、年中児以上です。受付が始まっています5月15日までの受付期間となっていますので、スポーツ協会ホームページから入ってもらって、参加申し込みができますのでよろしくお願いします。お子さんからお年寄りから障害のある方ない方どなたでも楽しめるスポーツですのでぜひご参加ください。私もですね、先ほどのボッチャフェスティバルに出てるんですよ。スポーツ協会からチームを作って参加しました。

（いいだ）

どうでした？

（金田）

始めて取り組みましたが、割とずっと取り組みます。体力とか関係なく、私も結構年齢いってますが、あまり関係なく取り組みます。ただ、やっぱり難しさというのは、先生おっしゃっていましたが、難しさは

あるんですよ。なかなか思いどおりにいかないというのもあるし、やっぱり力出せばいいというのでなくて、加減もありますね。それから転がすとか空中から落とすとか、いろんなテクニックあると思うんですね。もちろん私なんかはそこまでまだまだいきません。そういったのがあると、やっぱり競技性がすごく高まるんだなというふうに思いましたね。

（いいだ）

本当に可能性は広がるというか。健常者の方も実は難しいですね。そこらへん楽しめるスポーツとして戦えるスポーツとして皆さん参加してみていただきたいなあとと思います。その辺のところはスポーツ協会のホームページを見て欲しいと思います。

（金田）

新年度からいろいろな教室が開催されていて、5月から始まる種目もありますので、是非スポーツ協会のホームページを見ていただいて、これはやってみたいなというものがあれば、ぜひ参加してほしいなあとと思います。指導の方は、それぞれの加盟団体の指導者がしっかり指導してくれますので、安心して参加いただけたらありがたいなというふうに思います。

（いいだ）

詳しくはスポーツ協会のホームページの方をご覧ください。月刊！スポ協ナビ、今日は豊橋特別支援学校の先生でもありますエンジョイボッチャの代表鈴木祥子先生、そして穂の国ジャッカルズ、こちら

ボッチャのチームですね、伊藤優樹さんにお越しいただいて、金田さんと一緒にお話を伺いました。皆さんありがとうございました。

（鈴木、伊藤、金田）

ありがとうございました。